

## 平成 30 年第 2 回教育課程編成委員会 会議議事録

- 日 時 2018 年 5 月 17 日 (水) 13:00 - 15:00
- 場 所 横浜 日産自動車本社 スモールホール
- 参加者 日産学園学外委員
  - 出席者 学校法人 日産学園 委員 日本機械学会 高木さん
  - 学校法人 日産学園 委員 (株)Y G K 林さん
  - 学校法人 日産学園 委員 帝京大学 小林さん
  - 学校法人 日産学園 委員 日産自動車(株) 北村さん

### 日産学園学内委員

- 出席者 日産栃木自動車大学校 校長 藤岡、日産愛知自動車大学校 校長 田中
- 日産京都自動車大学校 校長 川上
- 学校法人 日産学園 委員 鳥井

### 委員以外

- 出席者 日産・自動車大学校 学長 今西、 日産横浜自動車大学校 校長 石井

### <概要>

下記議題について各項目をご説明・展開をした後、質疑を実施した。  
議題・展開事項及び主な質疑は以下の通り。

### <議題・展開事項>

1. 開会の辞 / 参加者紹介
2. 前回会議でのご意見及び FY17 取組報告\_ (一級自動車工学科議案)
3. 日産 5 校中期活動計画 (教育領域) 報告\_ (自動車整備科、一級自動車工学科議案)
4. FY18 日産学園活動計画報告及び意見交換\_ (自動車整備科、一級自動車工学科議案)
5. FY17 国家 1 級試験結果、分析、対策報告\_ (一級自動車工学科)

### 1. 開会の辞、参加者紹介

学長 今西：挨拶

学園 鳥井：出席者紹介

### 2. 前回会議のご意見に対する FY17 取組報告

学園 鳥井：FY17. 5 月に頂いたご意見に対する振り返り、各校新課程に於ける取組報告。

学会 高木：Super 耐久が新課程において、どの様に今の説明の中に散りばめられているのか。

学園 鳥井：新課程は Super 耐久とは別で考えている。KONDO レーシングとの繋がりを新課程に生かしている面はある。

学会 高木：色々な車体を作ったりしているが、そのドキュメントはどんな形で準備されているのか。また、次年度に引き継ぐために作られているか。

学園 鳥井：PDCA は回さないといけないので、振り返りはしっかりしている。

校長 川上：ドキュメント作成は正直、今の所あまり出来ていない。打ち合わせするのだが、その場、その場の話となってしまう結果的に残せていない。それなりに評価出来る物として出来たが、間のステップ、プロセス自体が教育と言う観点でやれたかと言えば、一番の問題として残った。今年は 2 年目に入るので、きちんとしたステップを刻みながら積み上げて行こうと始めている。

校長 藤岡：栃木校はレース中心で、レースに向けボロボロの車を全て分解、再組立てする事が当初の目的。学生たちは学んだ知識をおさらいする事が出来た。課外講師で溶接は人気があり役だった。引き継ぐためのドキュメントは残してある。卒業要件を何にするか決まらず、今までの感想を書かせた。レースではクラス別であるが、最高2位まで入ることができ、実績を残すことができた。今年度は、レースカーも1台増やしている。

YGK 林：学生はまとめる事は嫌がるが、出来上がった時に納得するので是非やってほしい。ドキュメントを作った瞬間に客観性を生む。

帝京 小林：すごく感じたのは、日産学園は何の学校なのか、レースもいい、板金もいい、が元々は整備の学校、整備にどうやって持って行くのかが無い。その辺をどう考えているのか。

校長 藤岡：もう一度、基本から学びなおす事をカリキュラムとして組み、4、5月でポンコツのサニーを組み立て直したが、思ったより時間がかかり、途中でレースが開幕してしまった。

校長 川上：京都校は板金の分野だが、整備の高度化に対応するには、1級をどうして行くかが大切である。4年生までに色々と教えているが、国家資格を取る事にウエイトを置いてしまっている。これからの先進技術に対しての理解をしていく事に授業を踏まえて再構築していきたい。

校長 田中：販売会社曰く、2年制を出た卒業生は、点検は出来るが修理が出来ないと言われている。愛知校では、レースに勝とうでは無く、ここをチューニングすれば何が変わるのか、走り方によって何処にどの様に負荷が掛かるのかを知る事が販売会社に行ってから役立つであろうと整備の幅を広げる事を目的としている。もう一つは、整備の楽しさ、車の楽しさを教えてあげ、将来的な退職率を下げる意味での願いを込めている。

### 学園 鳥井：各校による卒業研究の事例についての展開

校長 川上：以前まで研究期間が短期間でバタバタとやっていた。FY17は他の事を間にやりながら、年間を通して行う事にした。結果、長期的な考え方や、合間に自分として考える時間が出た。テーマについても先生の方でレベリングを上げ、新技術など幾つかテーマを与え自分たちで選んでいく形にして、もう少しチャレンジャブルな形にしていく。

学会 高木：私の経験では、1週間ごとに途中経過を発表させていた。そうすると、着実に進歩していく。褒めると言う事、達成感を与えることが大切。

校長 藤岡：卒業研究は法定授業ではないと国交省に釘を刺された。今年度内で来年度以降時間を変えないといけない。整備士として育てたい、整備以外で学生の力を伸ばしてあげたい。

YGK 林：教育編成委員会に愛媛校は入っているのか。

学長 今西：基本は、学校単位でやりなさいと言うのが文科省の指導。法人が同じ場合はセットで行っても良い。この場合は、学校法人日産学園としてやっている。愛媛は地元で同じことを行っている。

日産 北村：卒業研究について、新技術なども結構含まれている。予算の都合等もあると思うが、日産圏全体としては、新技術などに興味を持ってもらい、学んでいく事が大切だと思うし、推進して頂きたい。我々も連携していき、一人ひとりが理解を深めていきたい。

### 3. 日産5校中期活動計画（教育領域）についての報告

学園 鳥井：中期活動計画（3つのポリシー）について説明

帝京 小林：アドミッションポリシーとは入場を許可するという意味であり、後に記載していることは、順番が違うのではないかと。他の学校ではアドミッションポリシーは先に来ている。

学園 鳥井：今回は、「どんな学生を育てたいか」、からスタートしている。その為には「どんなカリキュラムが必要か」、その為には「こんな人材が必要」と、逆から考えた。

帝京 小林：他の学校とは違うので、他から見られた時に違和感を持たれないか心配である。

学長 今西：公開はまだなのだが、確かに仰る通り。説明に関しては作る手順で有り、我々にとってゴールが重要な為、どんな学生が入ってくるのが望ましいかを策定した。

学園 鳥井：中期活動計画（教育領域）について説明

帝京 小林：PDCAとあるが、Cはどの様な事をやるのか。

- 学園 鳥井：人間性の場合、自己チェック、相対的なチェック、第三者的なチェックを考えている。各活動の中で KPI を設定しており、それを細かく短サイクルで PDCA を回していく。
- 帝京 小林：怖いのは、チェックが何の項目を持ってチェックしているかがはっきりしていないと、その後のアクションがグダグダになってしまう。もう一つは、全部が全部正しいとは言えないが、学生による授業評価などを入れるのも良いかと思う。
- 校長 川上：授業アンケートは昔から学園もやっているが、役立っていない。学生もマンネリ化していて、どの授業も同じ数値となってしまう。フリーのコメント欄に多い授業と少ない授業がある。
- 帝京 小林：○×の評価が先に来るのが一般的だが、フリーコメントを先に持ってきた事で効果があった。学生との面談にも使用し、指導にも繋げた。自分が作成した授業評価表をお送りしますので、参考にしてください。

#### 4. FY18 日産学園活動計画及び意見交換

- 学園 鳥井：FY18 活動計画（自主性・主体性を柱とした取組み）について説明
- 帝京 小林：自主性・主体性の違いがよくわからない。前まで言っていたコミュニケーション関係はどの様になったのか。
- 学園 鳥井：コミュニケーションについては、自主性の姿の中に言葉で包括し、あるべき姿の中に入っている。3 ポリシーの中にコミュニケーション能力も入っている。
- 校長 田中：自主性も主体性もどの様にでも捉えられる。中計の中で教育については、トップで何かを決めて落とすのではなく、現場で自主性のある育成とは何なのか、主体性を育む教育とは何なのかを作ってもらい、実践してから PDCA を回していこうとしている。先生達に先ず考え、動いてもらいたいと考えている。
- 学園 鳥井：京都校、学生フォーミュラーへの挑戦について説明
- 校長 川上：EV は車検のハードルが高いので先ずは、車検に通る事が今年度の目標である。
- 帝京 小林：とても良い事である。注意すべき点は、先生が一生懸命になってしまっただけでは本末転倒である。今年度の目標が車検を通す事にしている事は非常に良い。
- 校長 川上：学校としての売り物にしなければならない。

#### 5. FY17 国家1級試験結果、分析、対策報告

- 学園 鳥井：過去との比較、合格率推移、問題分析、今後の対策について報告。
- 帝京 小林：新規問題、大幅改変問題の割合はどれ位か。
- 学長 今西：別データにて説明  
約半分位で、新規問題は 8/50 問 大幅改変問題は 24/50 問である。
- 帝京 小林：今までの指導方法は、間違っていないと思う。そこは変にいいじらない方がよい。  
学生の指導に時間が無いのなら 4 年生の早いうちに冊子として渡し、個々に学習を行わせるのが良いのでは。気になった点では、学生により工数を変えるのは良くない。平等でなくなる。

#### 5. 総括（学校外委員）

- ・ 様々な取組に対して共感する。
- ・ 年々取組み結果を向上するためには、PDCA サイクルを回す必要がありその為には、ドキュメントを残すことが必要である。

#### 6. 学校の受け止め

様々な報告の中で、委員の皆様から多数意見を頂き、例年以上に議論が活発になった。委員の皆様方が弊校の活動に強い関心を持って頂いている証と判断する。頂いたご意見を今年度の活動に最大限反映することとする。

例えば、新課程の活動、卒業研究の活動を向上させる為には、ドキュメントを残すことがそれに当たり、今年度の活動の中で取り組む必要がある。